

第1回：令和2年9月26日(土)～27日(日) 第2回：令和2年12月8日(火)～9日(水)

【目的】

「徳地アドベンチャー教育プログラム」(以下、TAP)の体験を通して、その教育効果を体感するとともに理念や手法を理解する。また、集団の力を借りながらコミュニケーションの楽しさや手段を学んでいくことで、人間関係の育み方を知る。

【参加者】第1回：24名(男16名 女8名) 第2回：19名(男14名 女5名)

【プログラムの内容】

1日目

- 10:15 開講式、オリエンテーション
- 10:30 セッション①「アイスブレイク等」
- 13:00 セッション②「イニシアチブ・ローエレメント等」
- 18:30 セッション③「理論、Being」

2日目

- 9:00 セッション④「ハイレメント」
- 13:00 セッション⑤「理論・Being・ふりかえり」
- 14:30 閉講式

セッション①



緊張をほぐすアイスブレイクの活動により、2日間ともに研修会に参加する初めて会った人との距離が近づいていく様子だった。お互いの人柄や研修会で学びたいことをテーマに会話が進み、少しずつ笑顔が増えていった。※新型コロナ対策として1グループの人数を減らし、2グループで体験を実施した。

セッション②



午後からは、課題解決活動とローエレメントを通して、参加者は試行錯誤を繰り返しながらドキドキと達成感を感じ、TAPの効果について体験的に学んでいた。

セッション③



1日目の活動を通して、心の距離が近づいてきているチームの様子をふりかえり、「明日のチャレンジに持っていきたいチームの素敵なおとこ」や「チームの目指す姿」をBeingの形にまとめた。本音の気持ちや言葉が出始め、真剣に考える様子が見られた。また、ふりかえりとともに指導者の立場として体験した活動の裏にある理論(体験学習サイクルなど)について学ぶことで、体験と理論をつなぐ時間となった。

セッション④



2日目はエレメントを使ってのチャレンジを行った。自分のチャレンジだけでなく、なかなか一歩が踏み出せない仲間への声かけや視線により真剣さが増し、チームや仲間の成功を自分のことのように喜ぶ表情や姿が見られた。達成感や信頼につながる心情を体験とともに実感している様子であった。

セッション⑤



2日間の体験をふりかえり、自分に起きたことや実生活につなげたいことを共有した。最後に全体で、グループとして、個人として成長を促すTAPを構成する考え方やアクティビティの提供についてのまとめを行った。

【参加者の声】

- ・体験学習サイクルについて参加者目線で深く学ぶことができた。
- ・教育現場でいかに活かすか考えながらも、没頭することができた。
- ・まだまだ学びたい気持ちが強くなった。
- ・グループの状態やそれに合わせたシーケンスの組み方は1通りでないと改めて実感した。実生活の中で、どう見るか、何を見るか、どうするかを考えてみたい。

【成果】

アンケート「4」の割合は2回の研修を合わせて95%を超えた。体験的に学ぶ時間を中心に研修内容を組んだことで、実感を持ってTAPの理論を学んでいる参加者の様子が多く見られた。新型コロナ禍に提供するアクティビティとして道具の使用や開発のための発想の広がりを提供できた。また、チームの雰囲気や居心地の良さを感じ、明日への活力を得て帰路につく参加者の姿もあった。複数グループでの研修により学びの幅を広げることができた。

【課題】

体験による研修を複数グループで提供したため、研修内容の進度に差が出たことで生活時間に影響を与えた場面があった。参加者の指導や研修による経験差があってもそれぞれの学びにつながる研修内容の検討が必要である。